「広大白書2」刊行される

全学の自己点検・評価報告書「広島大学白書2」が五月末に刊行された。今回の白書のタイトルは「新しい大学像をめざして―教育と研究との創発的展開―」。その意味は、教育と研究が互いに触発しあいながらそれらが融合して新たな段階に発展していくということを表している。

これまで刊行された種々の自己点検・評価関係報告書や昨年度実施された五種類のアンケート（「学部・学科等の実態調査」「研究科・専攻の実態調査」「教員へのアンケート調査」「一年生へのアンケート調査」「高等学校へのアンケート調査」）をもとにまとめられた。広島大学の「教育」と「研究」の現状と課題が具体的に点検・評価されている。

本文の内容は、次の八章からなっている。

Ⅰ学生の受入れ、Ⅱ学部の教育活動、Ⅲ学生生活、Ⅳ大学院の教育研究、Ⅴ研究活動、Ⅵ教員組織、Ⅶ国際交流、Ⅷ社会との連携

二五〇〇部印刷され、本学の全教官をはじめ、他大学や報道関係にも配布された。大学改革が求められている今、全学教官の必読の資料と言える。

第一回同窓会連合大会の純益一〇〇〇万円を寄付、体育会同窓会

四月二十八日に学長室で開かれた広大関連同窓会懇談会の席上、体育会同窓会理事長山根恒弘氏（山根木材株式会社社長）より、さる十二月二日に開催された第一回広島大学同窓会連合大会の決算報告があり、純益一〇〇〇万円が広島大学に寄付された。山根氏は「今後も広島大学の発展のために同窓会連合組織の結成など、協力していきたい」と話している。

ロゴマークの応募三十三件、一位は学教の才田博之君

フェニックスフェスタのロゴマークを全学から公募していたが、四月末日で締め切ったところ、教職員・学生から三十三件の応募があり、広報部会で審査の結果、学校教育学部で美術を専攻している三年生の才田博之君の作品（写真）が一位に選ばれた。佳作として施設部分室石垣治彦教官と学校教育学部三年生の迫田知子さんの作品が選ばれた。これらの作品は、本誌次号の「フォーラムギャラリー」で紹介する予定になっている。

フェニックスフェスタ

福山附属学校から

去る五月十九日㈮、ブルガリアをはじめ四か国の大使・領事夫妻や福山市と姉妹縁組のある岡崎市の副議長など、福山市が主催する『ばら祭り』の来賓が同『ばら祭り』行事の一環として当福山附属学校を訪問した。

昨年度、「花壇」の部でグランプリに輝いた当校バラ園の見学や美術のバラ写生の授業、理科のパソコン授業を、約1時間熱心に参観し、生徒たちとの交流を行った。

理学部の原教授ら学会賞等を受賞

理学部の原郁夫教授が、「石英の変形ファブリック、層状岩体の褶曲作用及びわが国の変成帯のテクトンクスに関する基礎研究」で四月一日に日本地質学会賞を、工学部の廣安博之教授と西田恵哉助教授が、「高圧噴射ディーゼル噴霧内における混合気形成過程」の論文により同じく四月一日に日本機械学会賞を、また、歯学部の菅井基行助教授が、「黄色ブドウ球菌が産生する表皮細胞分化抑制因子（EDIN）の発見及びその作用機序についての研究」により三月二十五日に黒屋奨学賞を受賞した。

テレビ会議の活用へ―広報委員会と広報部会

情報処理委員会では、これまでのテレビ会議システムを利用し、西条キャンパスと千田あるいは霞キャンパスとの間でテレビ会議を行ってきたが、部会委員が学校教育学部教職員、原医研教職員、それに本部事務官などからなる広報部会では、会議の出席率を高め時間の節約をはかるため、五月十六日の第十一回の会議からテレビ会議の導入を決めた。会議は午前十時から東千田キャンパスの情報処理センターと西条キャンパスの情報処理センターのテレビ会議室で開かれ、カラーポスターの審査なども含めて、通常より三十分も早く全議題の処理を終えた。

また、広報委員会も、同日午後一時から同じ会場で会議を開き、新任委員四名の自己紹介などカメラのリモコン操作でズームなどを活用し、広大フォーラムの一号の記事内容の検討、二号（七月三日刊行予定）の編集計画などの議題を、FAXを併用しながら処理した。

使用回線がNET64のため画像の動きがややぎこちない点や、マイクが無指向性のピラミッド型のため紙をめくるノイズまでひらってしまうという難点はあるが、もの珍しさと西条と広島を移動する時間のロスがない点で、出席率も高く、参加者には好評であった。

情報処理センターでは、他の委員会などの積極的利用を呼びかけている。

「広大二神口」停留所が設置される

学校教育学部などの移転に伴い、八番目の停留所として「広大二神口」停留所が設置され、四月二十八日から利用されている。設置を待ち望んでいた学校教育学部にとっては朗報となった。

「フェニックスフェスタ」統合移転完了記念事業のマスコットネーム決まる

広報部会では、「広島大学統合移転完了記念事業」全体のマスコットネームを「フェニックスフェスタ」とするよう提案を行っていたが、二月二十八日の実行委員会小委員会で正式に認められ、全学的に採用されることになった。同時に封筒などのデザインも進んでおり、早ければ六月中旬から全学に配布され、フェニックスフェスタ完了まで、全学一斉にロゴマーク入りの封筒の使用が可能になる。特別封筒の使用により、学内外のムードの盛り上がりが期待されている。

フェニックスフェスタの内容、最終的に決まる

四月二十六日に開かれた「広島大学統合移転完了記念事業実行委員会」でフェニックスフェスタの内容が最終的に確定した。

期間は十一月一日㈬から十七日㈮までで、大学祭が三日から五日まで同時に開催されるので、この期間は西条キャンパスは文字通り大型のフェスティバルになりそう。

記念式典と祝賀会は一日に開かれ、元西ドイツ首相ヘルムート・シュミット氏の記念講演が総合科学部の大講義室で行われる。同日夜は東広島中央公民館で、教育学部音楽科によるコンサートが開かれる。

十一月二日と三日は広島市の国際会議場で、これからの日本の大学教育や外交などをテーマとした国際シンポジウムが開催される。四日には大学会館で留学生のスピーチコンテストと本学学生によるパネルディスカッションが開催される。

十一日には東広島市中央公民館で、広大交響楽団によるフェニックスコンサートが予定されている。十七日には、水畜産学部（現生物生産学部）の卒業生で音楽家の坂田明氏の講演「ミジンコから学んだこと」が、同じく東広島中央公民館で開かれる。

記念品としては、全教職員にテレホンカードと統合移転記念誌「飛べフェニックス」の配布が予定されている。